

令和 6 年度第 3 回狭山市スポーツ推進審議会会議録

開催日時 令和 7 年 3 月 11 日（火）
19 時から 20 時 15 分まで
開催場所 狭山市役所 601 会議室
出席者 池森委員、木谷委員、太田委員、鈴木委員、大野委員、宮坂委員、
梅村委員、芝田委員
欠席者 山崎委員、稲葉委員
事務局 滝嶋教育長、五十嵐生涯学習部長、河井スポーツ振興課長、伊吹主幹、
木村主任
傍聴者 なし

議 題

(1) 令和 6 年度社会体育関連事業実施状況について

【資料 1】令和 6 年度社会体育関連事業実施状況を基に説明をした。

質 疑

委 員 コロナ前と比較して参加人数の変化はどのように推移しているのか。
事務局 今年度 18 教室 753 人の参加に対し、平成 30 年は 16 教室 944 人の参加
となっている。
委 員 コロナ前の参加人数にどのように戻すか考えなければいけない。（意見）
委 員 今年の夏も暑く、7 月に実施したラクロス・サッカー教室は会場が人工芝
ということもあり、特に暑さを感じたのではないかと。熱中症対策としてどの
ような対応をしたのか。
事務局 ビニール袋に氷水を入れた物をアイシング代わりに子供たちへ手渡し、休
憩の際にはテントで身体を休めた。また、塩分タブレットを配布するなど、
熱中症対策に取り組んだ。
委 員 令和 5 年度と令和 6 年度を比較すると子供向けに新たに取組んだ事業
が増えたことがわかった。成人以外をターゲットにした取り組みは評価する
点であり、今後も子供たちが運動する機会や場所の提供に繋がれると良い
と思う。
委 員 子供たちの教室参加実績に対してどのような成果ができたのか
事務局 教室実施後のアンケート集計の結果、「楽しかった」「また参加したい」と
いう声をいただいている。
委 員 「また参加したい」という子供たちの受皿となる団体やスポーツの受皿が
あると、各種目の裾野を広げるきっかけとなり、既存団体の有効活用が必要
となってくる。
事務局 子どもスポーツ体験で実施した内容がラグビー教室であったが、教室
以外にも公式戦観戦ツアーを企画実施するなど、スポーツへの興味を深める

取り組みをしている。

委員 生涯スポーツという観点からといくと、ウォーキングなどの年配者が取り組みやすい種目が増えるとより魅力的な事業展開となるのではないかな。

委員 学校教育の中の運動ではなく、地域としての活動や子供たち向けの体験が生涯スポーツの環境作りには必要であり、既存団体にはそのような取り組みに努力してもらいたい。

委員 部活動の地域移行という課題が浮き上がってきている中で、地域スポーツの在り方が今後重要となってくる。

委員 地域スポーツは、全てボランティアで支えてきた。ボランティアに任せてボランティアが責任をとる時代ではなくなった。継続させるための仕掛けが必要であり、有償ボランティアなどを導入していく必要がある。

委員 部活動地域移行を進めていく上で、スポーツ協会や地域総合型スポーツクラブの運営体制を整えることが今後の課題になると考えている。地域に根差した組織運営をするため、みなさんの考えを伺いたい。

委員 指導者の確保・手配が課題と言われているが、マネジメントが大切なのではないかと感じる。保護者の当番や送迎が足かせとなっている家庭もある中で、その課題を明確に解決する手段があれば前に進めると思う。日本では、指導者がボランティアで指導と運営を行い、加えて団員の募集まで行うなど大変な思いをしている。指導とマネジメントを分担することが重要になってくる。

委員 良い事例の真似でもよいので、新しいことにチャレンジしてもらいたい。

委員 スポーツ推進委員では、ラケットテニス親睦大会を開催している。ラケットテニスの普及活動をしながら、多くの人に体験をしてもらうことでチームができて大会開催ができるようにまで裾野が広がった。今後は、コロナ前に活動していたドッジビーなどにも再度力を入れていきながら、チーム結成までの普及に繋がっていくと良いと感じている。ボッチャやモルックなど老若男女が取り組めるニュースポーツの体験が増やせればよいと考えている。

委員 70 周年記念事業で実施した親子体験会では、見学している保護者たちが子供の身体を動かす姿を見て感動し、スポーツを楽しいと気づいてもらえる貴重な機会だった。スポーツが素晴らしいものだと思えることができる取り組みが大切と感じた。

委員 30 代、40 代の世代は、子育て世代でもあり教室・イベント参加が難しい。親子をターゲットにした事業であれば、もっと気軽に参加ができるので親子イベントを今後も増やしてもらいたい。

委員 クロスカントリー大会では、有名ゲストが会場へ足を運んでくれた。参加者もレース以外に会場で写真撮影をするなど、大いに盛り上がり、良い取り組みだった。

委員 クロスカントリー大会においては、駅から 100m で会場という好立地を活かし、西武鉄道からポスター掲示の周知に協力をいただいた。駐車場のない

会場なので電車で市外県外から来場者を増やす取り組みを考えていきたい。

委員 クロスカントリー大会の参加は狭山市民を対象にしたものなのか。

事務局 狭山市民に限定した大会ではなく、全国から募集を募っている。今年度は北海道や沖縄からのエントリーがあった。

議題

(2) 令和7年度社会体育関連事業計画について

【資料2】令和7年度社会体育関連事業計画（案）を基に説明をした。

質疑

委員 合気道教室は、教室実施後の受皿はあるのか。

事務局 日頃より会場で稽古をしている合気道団体があるため、継続して合気道に取り組める受皿がある。

委員 ボクササイズは単発の教室なのか。

事務局 単発の教室となっているが、自宅でも継続して取り組めるプログラムを予定している。狭山市出身のプロボクサーを講師に招き、ボクササイズという新たな運動を体験してもらうことに加え、地元のアスリート知っていただく機会にしたいと考えている。

委員 スポーツを観戦することもスポーツを楽しむ関わることのひとつだと思う。公式戦のPRをしてもらうなど、スポーツに触れる機会を増やしてもらいたい。

委員 スポーツをする市民を増やすために、今後どのように取り組んでいくのか。スポーツ教室を実施するだけでは難しいと想定されるが、どのような策を考えているのか。

事務局 スポーツ振興課で実施する教室は、スポーツを始めるきっかけ作りとして活用していただきたい。継続したい場合には、市内の関連団体や地域クラブで活動を続けてもらいたい。その他にも、ラケットテニスの事例のように、スポーツを体験して競技や活動を楽しみ継続していくなかで、新たなチームを作っていただけるような仕組み作りができれば良いと考えている。

委員 新たなチームや組織を作りたいとなった時に、サポートをしてくれる組織があるとチーム新設のハードルが下がると思う。（意見）

委員 今年度実施したバスケットクリニックは、来年度実施しないのか。

事務局 さいたまブロンコスとの連携協定を締結したことをきっかけに、事業計画以外のイベントを企画運営していく予定であり、狭山市の子供たちに還元される取り組みを計画していく。

【その他】

●学校体育施設等開放事業における実費徴収額の見直しについて

質疑

委員 団体からは納得していただけたのか。

事務局 大きな混乱はなく終了した。

委 員 免除団体はどの程度いたのか。

事務局 200 団体のうち、免除以外の団体が 110 団体、実費徴収額を免除していた団体が 90 団体いた。

委 員 110 団体が実費徴収額を支払っていたとなると、不公平感を感じていた団体もいたのではないかと思う。

事務局 小学校体育館のバスケットコート 1 面分は、市民総合体育館を使うと 1,700 円、地域スポーツ施設の場合は 1,500 円かかる中で、小学校が 550 円中学校であれば 650 円で体育館を使えるという状況を鑑みれば、実費徴収額の見直しを実施しても安価な金額となっていると考えている。

【会議資料】

- ・令和 6 年度第 3 回狹山市スポーツ推進審議会 次第
- ・令和 6 年度社会体育関連事業実施状況
- ・令和 7 年度社会体育関連事業計画（案）